

科目名	生物				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

生物学の知識を深めることにより主にヒトという生命体の不思議を知り、命の大切さに深い理解を持った視能訓練士を育成する。生化学や生理学の基礎を学習し、次年度の専門科目への導入としての役割を果たす。

授業計画

1	生命体の誕生と細胞
2	生命を構成する物質と代謝1
3	生命を構成する物質と代謝2
4	生命を構成する物質と代謝3
5	生命を構成する物質と代謝4
6	まとめと確認テスト
7	遺伝情報の担い手 1 DNA
8	遺伝情報の担い手 2 RNA
9	遺伝的疾患の診断と治療
10	まとめと確認テスト
11	各器官系の働き①呼吸系
12	②消化系 ③循環系
13	④免疫系 ⑤排出系
14	⑥内分泌系 総合
15	試 験
成績評価法	確認テスト 試験 課題 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	系統看護学講座 生物学（医学書院）
備 考	副教材：やさしい基礎生物学（羊土社） 医学薬学系のための基礎生物学（講談社） 生命化学（東京化学同人） ポートの生化学（化学同人） 解剖生理学（メディカ出版） 人体の構造と機能（医歯薬出版） 他

科目名	物理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士に必要な幾何光学・物理光学・量子光学の基礎を理解する

授業計画

1	視力について①
2	視力について②
3	光の性質 幾何光学①
4	光の性質 幾何光学②
5	光の性質 物理光学①
6	光の性質 物理光学② 量子光学
7	レンズについて（球面・円柱・プリズム・偏光板）
8	レンズの作図
9	光の性質 物理光学③ 量子光学
10	レンズの表記について、略号等、Gullstrandの模型眼
11	屈折異常・調節異常①
12	屈折異常・調節異常②
13	遠点・近点・調節力の基礎①
14	遠点・近点・調節力の基礎②
15	試 験
成績評価法	筆記試験
使用テキスト	スライド・ノート・プリント
備 考	

科目名	数学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

- ・ 基本的な式や方程式などの計算がスムーズに出来るようにする。
- ・ 関数の意味を理解し実際に利用できるようにする。
- ・ 確率の基礎を確認し統計学につなげる。

授業計画

1	確認テスト
2	数と式1
3	数と式2
4	等式1
5	等式2
6	確認テスト
7	指数と対数1
8	指数と対数2
9	関数1
10	関数2
11	確認テスト
12	順列
13	順列と組み合わせ
14	確率
15	試 験
成績評価法	試験 確認テスト 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	臨床検査学講座（医歯薬出版） 数学／統計学
備 考	副教材：プリント等使用

科目名	数学Ⅱ（統計学）				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

統計資料の整理や扱い、度数分布の特徴などを学び、レポートの作成などに利用できるようにする。

授業計画

1	確率 確率分布
2	統計学の考え方
3	統計学の分析概念
4	標本抽出
5	統計資料の整理
6	標本分布の特性値
7	総合授業
8	試 験
成績評価法	試験 課題 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	数学／統計学（臨床検査学講座） その他プリント等使用
備 考	副教材：優しい医療系の統計学（佐藤敏雄著）、他

科目名	心理学				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

心と身体、発達について知り、自己と他者に役立つ技術を身につける。

授業計画

1	心理学とは
2	心のしくみ
3	感覚の知覚
4	記憶
5	欲求
6	人の性格
7	学習
8	社会心理
9	家族心理
10	ストレスと健康
11	発達心理学
12	カウンセリング技術Ⅰ
13	カウンセリング技術Ⅱ
14	カウンセリング技術Ⅲ
15	試 験
成績評価法	試験・レポート・授業態度による
使用テキスト	なし
備 考	プリントを配布

科目名	保健体育				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

身体の構造や機能を知り、筋肉の働きや動き方、特徴を理解する。
保健予防知識を学び、対象者の年齢や疾病の状況に応じた支援ができるようにする。

授業計画

1	健康と運動
2	運動と筋
3	運動と栄養
4	運動とエネルギー
5	トレーニングにおける身体機能の変化
6	加齢と運動
7	健康について
8	ストレスについて
9	ストレスと適応
10	感染症について
11	感染症予防
12	免疫について
13	まとめ①
14	まとめ②
15	試 験
成績評価法	出席状況、試験で評価する
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント等使用

科目名	外国語 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

一般的な英語・医学英語を学ぶだけでなく、それを通して基本的な医学の知識も習得する。

授業計画

1	Chapter1 イントロダクション、細胞・器官および系
2	Chapter1 細胞・器官および系
3	Chapter2 循環器系
4	Chapter2 循環器系
5	Chapter2 循環器系の疾患
6	Chapter2 循環器系の疾患
7	Chapter3 血液
8	Chapter4 血液
9	Chapter5 血液の疾患
10	Chapter6 血液の疾患
11	Chapter4 呼吸器系
12	Chapter4 呼吸器系
13	Chapter4 呼吸器系の疾患
14	Chapter4 呼吸器系の疾患
15	試 験
成績評価法	試験・小テスト・出席・授業態度
使用テキスト	やさしい医学英語（医学書院）
備 考	副教材：医療英会話・その他プリント

科目名	外国語Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

一般的な英語・医学英語を学ぶだけでなく、それを通して基本的な医学の知識も習得する。

授業計画

1	Chapter5 消化器系
2	Chapter5 消化器系
3	Chapter5 消化器系の疾患
4	Chapter5 消化器系の疾患
5	Chapter7 神経系
6	Chapter7 神経系
7	Chapter7 神経系の疾患
8	Chapter7 神経系の疾患
9	Chapter9 皮膚および感覚器系
10	Chapter9 皮膚および感覚器系
11	Chapter9 皮膚および感覚器系
12	Chapter9 皮膚および感覚器系、皮膚および感覚器系の疾患
13	Chapter9 皮膚および感覚器系の疾患
14	Chapter9 皮膚および感覚器系の疾患
15	試 験
成績評価法	試験・小テスト・出席・授業態度
使用テキスト	やさしい医学英語（医学書院）
備 考	副教材：医療英会話・その他プリント

科目名	臨床心理学 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

人の発達についての知識を得、支援のための理論を身につける。

授業計画

1	発達心理学とは
2	ライフサイクル
3	乳児期
4	幼児期
5	児童期
6	青年期
7	成人・老年期
8	試 験
成績評価法	試験、レポート、授業態度による
使用テキスト	なし
備 考	副教材：プリントを配布

科目名	生理学Ⅰ（基礎）				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

細胞間情報伝達、細胞内情報伝達の基本的な機序を理解し、視覚機能における基礎的生理学的機能の背景を理解する。

授業計画

1	①体液 専門基礎分野Ⅰ-4 1) 細胞内外溶液 2) 血液組成と機能
2	①体液 専門基礎分野Ⅰ-4 3) 免疫機能 専門基礎分野Ⅰ-5
3	3) 免疫機能 専門基礎分野Ⅰ-5
4	②消化機能 専門基礎分野Ⅰ-9 1) 消化管の働き 2) 消化酵素 3) 消化管ホルモン
5	③呼吸器 専門基礎分野Ⅰ-7 1) 気道の機能 2) 肺の機能
6	④心臓と血管 専門基礎分野Ⅰ-8 1) 心臓と血管の機能
7	⑤腎臓の機能 専門基礎分野Ⅰ-11
8	⑥生殖器の機能 専門基礎分野Ⅰ-11
9	試 験
成績評価法	筆記試験（形成的評価） マークシート試験（総括的評価）
使用テキスト	
備 考	使用器材：プロジェクター

科目名	解剖学Ⅰ（全身）				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な解剖学的知識を学ぶことにより、臨床において理論的な裏付けに基づき理解することを目的とする。

授業計画

1	眼球及び付属器に関する総論
2	骨学（頭蓋骨15種23個）
3	骨学（眼窩を構成する骨）
4	筋学（筋組織の種類、顔面筋）
5	筋学（外眼筋および内眼筋）
6	神経学（脳の構造）
7	神経学（脳神経12対）
8	神経学（顔面筋、外眼筋、内眼筋の支配神経）
9	脈管学（心臓の構造、体循環、肺循環）
10	脈管学（心臓から眼球までの動脈の流れ）
11	脈管学（眼窩を流れる動静脈）
12	内蔵学（消化器系）
13	内蔵学（呼吸器系）
14	総復習
15	試 験
成績評価法	定期試験
使用テキスト	人体の構造と機能 第5版 医歯薬出版
備 考	

科目名	解剖学Ⅱ（視器）				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

医療に従事する視能訓練士としての視器の解剖、生理とその異常を眼球・眼窩・視路と解説する。

授業計画

1	人体と眼の発生（Ⅰ）
2	人体と眼の発生（Ⅱ）
3	顔部と眼球の解剖・生理・病理
4	顔部と眼球の解剖・生理・病理
5	眼球、眼窩と副鼻腔の機能とその異常
6	眼球、眼窩と副鼻腔の機能とその異常
7	眼球、眼窩と外眼筋（Ⅰ）
8	眼球、眼窩と外眼筋（Ⅰ）
9	眼球、眼窩と外眼筋（Ⅱ）
10	眼球、眼窩と外眼筋（Ⅱ）その異常
11	網膜と視路、視中枢（Ⅰ）
12	網膜と視路、視中枢（Ⅱ）その異常
13	視中枢（Ⅰ）
14	視中枢（Ⅱ）
15	光覚の発生
16	試 験
成績評価法	眼の機能とその異常（病理）について理解度を設問解答用紙にて評価
使用テキスト	標準眼科学
備 考	使用器材等：プロジェクター（視覚教材スライド講義） 副教材：スライドプリントを配布

科目名	医学概論 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療に携わる視能訓練士としての医史学と医療の発展と古代、中世、近世、現代に亘って解説する。

授業計画

1	古代ギリシア・ローマの医療史（Ⅰ）
2	古代ギリシア・ローマの医療史（Ⅱ）
3	中世の医学との医療史（Ⅰ）
4	中世の医学との医療史（Ⅱ）
5	近世の医学との医療史（Ⅰ）
6	近世の医学との医療史（Ⅱ）
7	現代医学との医療史
8	試験
成績評価法	試験・出席状況・受講態度
使用テキスト	板書、プリント
備 考	使用器材：プロジェクター

科目名	医学概論Ⅱ				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療に携わる視能訓練士としての医史学と医療の発展と古代、中世、近世、現代に亘って解説する。

授業計画

1	生命の起源と医の始まり①
2	生命の起源と医の始まり②
3	健康の基礎①
4	健康の基礎②
5	病気（疾患）の基礎①
6	病気（疾患）の基礎②
7	現代から将来の医療
8	試 験
成績評価法	試験・出席状況・受講態度
使用テキスト	板書、プリント
備 考	使用器材：プロジェクター

科目名	視能障害学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な眼科の基本的な知識を修得する。

授業計画

1	視機能異常
2	視機能異常
3	視機能異常
4	視機能異常
5	視機能異常
6	視機能異常
7	視機能異常
8	視機能異常
9	視機能異常
10	視機能異常
11	視機能異常
12	視機能異常
13	視神経疾患
14	視神経疾患
15	試 験
成績評価法	試験・レポート・授業態度による
使用テキスト	イラスト眼科・病気が見える・現代の眼科学
備 考	プリントを配布

科目名	視能障害学Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能訓練士として必要な眼科の基本的な知識を修得する。

授業計画

1	視神経・視路疾患
2	外眼部・前眼部疾患
3	外眼部・前眼部疾患
4	外眼部・前眼部疾患
5	外眼部・前眼部疾患
6	外眼部・前眼部疾患
7	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
8	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
9	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
10	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
11	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
12	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患
13	外傷
14	全身病と眼
15	試 験
成績評価法	試験・レポート・授業態度による
使用テキスト	イラスト眼科・病気が見える・現代の眼科学
備 考	プリントを配布

科目名	眼科検査学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

眼科検査で使用する機械について、機器の構造や使用目的を理解する。

授業計画

1	視力検査
2	視力検査
3	視力検査
4	眼鏡・コンタクトレンズ検査
5	瞳孔検査
6	屈折検査
7	屈折検査
8	眼圧検査
9	調節検査
10	視野検査
11	色覚・光覚検査
12	前眼部検査
13	前眼部検査
14	前眼部検査
15	試 験
成績評価法	レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクタ、眼科検査機器

科目名	眼科検査学Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

眼科検査で使用する機器について、機器の構造や使用目的を理解する。

授業計画

1	外眼部・涙道検査
2	光干渉断層計
3	光干渉断層計 前房・隅角検査
4	眼底写真・眼底検査・固視検査
5	眼球運動検査
6	眼球運動検査
7	両眼視機能検査
8	両眼視機能検査
9	両眼視機能検査
10	眼位検査
11	眼位検査
12	眼位検査
13	電気生理検査
14	眼軸長検査 超音波、放射線、画像診断
15	試 験
成績評価法	レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクタ、眼科検査機器

科目名	生理光学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

屈折測定理論を理解するための生理光学の基礎。

授業計画

1	球面レンズによる遠用矯正 1
2	球面レンズによる遠用矯正 2
3	球面レンズによる遠用矯正 3
4	球面レンズによる遠用矯正 4
5	乱視眼とその矯正 1
6	乱視眼とその矯正 2
7	乱視眼とその矯正 3
8	乱視眼とその矯正 4
9	乱視眼とその矯正 5
10	乱視眼とその矯正 6
11	調節と近用矯正 1
12	調節と近用矯正 2
13	調節と近用矯正 3
14	調節と近用矯正 4
15	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	プリント教材
備 考	

科目名	視能学概論（多職種連携）				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士という職業について、業務、他のスタッフとの関係や患者様との関係を学ぶ。
--

授業計画

1	チーム医療の定義・理念
2	チーム医療を受ける立場から（患者）
3	視能訓練士の業務（視能訓練士との連携）
4	視能訓練士の業務（眼科医との連携）
5	視能訓練士の業務（多職種との連携）①
6	視能訓練士の業務（多職種との連携）②
7	まとめ
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	チーム医療を推進するために
備 考	使用機材等：プロジェクター、パソコン

科目名	医療情報学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

現在情報機器はあらゆる業界で使用されており、現場においてデータ・情報及び知識を管理し、コミュニケーションをとる上で必要となるスキルを持つ事を目標・目的として情報学から学習する。この情報学では汎用性の高いWindowsとOfficeアプリを用い、仕事を効果的に行うスキルを習得する。

授業計画

1	ガイダンス、情報分野の概要、OSやネットワーク基礎
2	文書作成基礎
3	文書作成応用
4	表計算基礎1
5	表計算基礎2
6	表計算応用
7	プレゼンテーション基礎
8	試 験
成績評価法	出席回数が規定内である者が、第8回目の講義で単位認定テストを受け、60%以上で認定となる。テストはOfficeアプリ (Word Excel PPT) から出題、全アプリにて回答がなされている必要がある。
使用テキスト	情報リテラシー 入門編 (FOM出版)
備 考	

科目名	医療社会学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

本校教育の理念・目的・目標に照らし、混迷する現代社会の中で、感性を研ぎ澄まし、常識を疑いながら、身近にある様々な現象を、相対的・総合的に把握するものの見方や考え方を身につける。

授業計画

1	社会学とは何か
2	社会学で考える
3	社会と集団
4	会社を理解する
5	メディアと情報社会
6	現代社会に求められるもの（1）
7	現代社会に求められるもの（2）
8	試 験
成績評価法	毎回、課題を提示し、それに対するレポートを提出して頂き、その結果と定期試験及び平常の質問に対する回答や授業態度等を総合的に評価する。
使用テキスト	レジュメを作成し提供、それに関する新聞記事をコピーし提供、教材とする。
備 考	副教材：「はじめて学ぶ社会学」、「基礎社会学」、「論文作成の留意点」

科目名	医療関係法規				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士としての法律知識を学ぶ。

授業計画

1	法の概念①
2	法の概念②
3	医療法の目的
4	医療計画
5	医師法
6	歯科医師法・薬剤師法
7	公的医療保険
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント 使用器材等：パソコン、プロジェクター

科目名	栄養学 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士に必要な栄養素の基本と疾患と栄養療法（食事療法）を修得する。

授業計画

1	糖質と糖尿病
2	たんぱく質と高血圧症
3	脂質と脂質異常症
4	ミネラルと腎臓病
5	ビタミンと貧血など
6	食物繊維と消化器疾患
7	栄養補給法
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント 使用器材等：パソコン、プロジェクター

科目名	栄養学Ⅱ				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士に必要な栄養素の基本と疾患と栄養療法（食事療法）を修得する。

授業計画

1	栄養素の種類 1
2	栄養素の種類 2
3	ライフステージにおける栄養
4	栄養補給法
5	臨床栄養学1
6	臨床栄養学2
7	人間栄養学について
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	
備 考	副教材：プリント配布 使用器材等：PC・プロジェクター

科目名	リハビリテーション学				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

リハビリテーションの定義、リハビリテーション関連医学、リハビリテーションの過程について基本的な概念修得する。

授業計画

1	リハビリテーション医学総論（Ⅰ）
2	リハビリテーション医学総論（Ⅱ）
3	障害の評価
4	障害の治療
5	障害各論（Ⅰ）
6	障害各論（Ⅱ）
7	授業のまとめ
8	試 験
成績評価法	出席、試験で評価する
使用テキスト	特になし。授業時に資料を配布する。
備 考	使用器材等：7回目の講義でビデオを使用

科目名	視覚生理学Ⅰ（分解能・空間感覚）				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視能訓練士として必要な「見る」という能力基本の知識を習得する。

授業計画

1	視力について①
2	視力について②
3	視力について③
4	視力検査①
5	視力検査②
6	視力検査③
7	視力検査④
8	試 験
成績評価法	平常点、試験
使用テキスト	病気がみえる、視能学 副教材：P.P. 使用器材等：プロジェクター
備 考	

科目名	視力屈折 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

乱視表を使って雲霧法を行い、正しい円柱レンズの値を求める。
正確に矯正視力値の記載ができる。

授業計画

1	雲霧法による矯正理論①
2	雲霧法による矯正理論②
3	雲霧法による矯正理論③
4	雲霧法による矯正理論④
5	雲霧法による矯正理⑤
6	雲霧法による矯正理論⑥
7	雲霧法による矯正理論⑦
8	雲霧法による矯正理論⑧
9	雲霧法による矯正視力測定
10	雲霧法による矯正視力測定
11	雲霧法による矯正視力測定
12	雲霧法による矯正視力測定
13	雲霧法による矯正視力測定
14	雲霧法による矯正視力測定
15	試験・レポート提出
成績評価法	試験・レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド等
備 考	副教材：配布プリント 使用機材等：プロジェクタ

科目名	視力屈折Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

屈折検査のクロスシリンダー法の理論と手技をできるようにする。
オートレフRACTメータとノンコンタクトトノメータの手技と説明をできるようにする。

授業計画

1	屈折検査・眼圧検査
2	屈折検査・眼圧検査
3	屈折検査・眼圧検査
4	屈折検査・眼圧検査
5	屈折検査・眼圧検査
6	屈折検査・眼圧検査
7	屈折検査・眼圧検査
8	屈折検査・眼圧検査
9	屈折検査・眼圧検査
10	屈折検査・眼圧検査
11	屈折検査・眼圧検査
12	屈折検査・眼圧検査
13	屈折検査・眼圧検査
14	屈折検査・眼圧検査
15	試 験
成績評価法	レポート
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：配布プリント 使用器材等：5m視力検査台、レンズセット、クロスシリンダー、オートレフRACTメータ、ノンコンタクトトノメータ

科目名	基礎視能矯正学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能矯正の基礎を学ぶ。
将来、視能訓練士として臨床で応用できるよう基礎知識の習得を目標とする。

授業計画

1	視器の解剖
2	視能矯正学総論
3	視能矯正学総論
4	生理光学
5	生理光学
6	生理光学
7	生理光学
8	視能矯正学総論
9	視能矯正学総論
10	視能矯正学総論
11	視能矯正学総論
12	視能矯正学総論
13	視能矯正学総論
14	視能矯正学総論
15	試 験
	試験
使用テキスト	視能学3版
備 考	副教材：配布プリント、視能学第2版 使用器材等：PC、プロジェクター

科目名	基礎視能矯正学Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	2

授業概要

視能矯正の基礎を学ぶ。
将来、視能訓練士として臨床で応用できるよう基礎知識の習得を目標とする。

授業計画

1	視能矯正学総論
2	視能矯正学総論
3	視能矯正学総論
4	視能矯正学総論
5	視能矯正学総論
6	視能矯正学総論
7	視覚生理学
8	視覚生理学
9	視覚生理学
10	小児眼科学
11	眼科薬理学
12	神経眼科
13	電気生理学
14	総括
15	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	視能学3版
備 考	副教材：配布プリント、視能学第2版 使用器材等：PC、プロジェクター

科目名	視能検査学 I				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

眼科の各検査を通して視器の解剖・生理・病理を学ぶ。

授業計画

1	涙液検査
2	涙液検査
3	屈折検査
4	屈折検査
5	屈折検査
6	屈折検査
7	超音波検査
8	超音波検査
9	眼底検査
10	眼底検査
11	眼底検査
12	電気生理学
13	電気生理学
14	電気生理学
15	試 験
成績評価法	試験（レポート課題）、平常点
使用テキスト	
備 考	副教材：配布資料 使用器材等：実習機器

科目名	視能検査学Ⅱ				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要 視野・色覚・光覚について学習する。

授業計画	
1	視野
2	視野
3	視野
4	視野
5	視野
6	視野
7	視野
8	色覚
9	色覚
10	色覚
11	色覚
12	光覚
13	光覚
14	光覚
15	試 験
成績評価法	平常点と試験
使用テキスト	視能学3版
備 考	使用器材等：プロジェクタ 副教材：配布プリント

科目名	視能検査学Ⅲ				
学年	1年	時間数	30	単位数	1

授業概要

1. 眼位・眼球運動の定性・定量の検査を学ぶ。 2. 眼位・眼球運動検査、両眼視機能検査の実際について学ぶ。

授業計画

1	眼位・両眼視機能検査
2	眼位・両眼視機能検査
3	眼位・両眼視機能検査
4	眼位・両眼視機能検査
5	眼位・両眼視機能検査
6	両眼視機能検査
7	両眼視機能検査
8	眼位検査
9	眼位検査
10	眼位検査
11	眼位検査
12	眼位検査
13	眼位検査
14	眼位検査
15	試 験
成績評価法	試験・レポート・平常点
使用テキスト	眼科検査ガイド・視能学3版
備 考	副教材：配布プリント

科目名	写真画像学 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

写真の基礎を学び、眼科における様々な画像検査を理解する。

授業計画

1	写真の基礎
2	写真の基礎
3	眼底写真の基礎
4	眼底写真の基礎
5	眼底カメラ実習
6	眼底カメラ実習
7	その他の画像検査
8	試 験
成績評価法	試験、出席状況
使用テキスト	検査ガイド
備 考	副教材：レジュメ 使用器材等：PC・プロジェクター・眼底カメラ

科目名	視能訓練学総論 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

両眼視機能を成立させる諸要素の理論を理解する。

授業計画

1	斜視総論
2	斜視総論
3	斜視総論
4	斜視総論
5	弱視総論
6	弱視総論
7	弱視総論
8	試 験
成績評価法	試験、レポート、実習
使用テキスト	視能学3版
備 考	

科目名	総括 I				
学年	1年	時間数	15	単位数	1

授業概要

1年生で学んだ基礎知識の確認と復習。

授業計画

1	解剖
2	解剖
3	機能
4	機能
5	検査
6	検査
7	疾患
8	試 験
成績評価法	試験
使用テキスト	チーム医療を推進するために
備 考	使用機材等：プロジェクター、パソコン

科目名	臨地実習Ⅰ（準備・多職種）				
学年	1年	時間数	45	単位数	1

授業概要

教育を学び、学校、盲ろう学校の仕組みを学ぶ。茶道を通じ作法、マナーを学ぶ。盲学校見学に向け、基本的な眼疾患を学ぶ。盲学校の見学実習をする。

授業計画

1	人間の学習と成長・発達
2	教育の種類 自主的な学習と生活との関連
3	家庭教育
4	教育の目的
5	教育評価
6	盲ろう教育
7	盲ろう教育
8	茶の湯って何だろう？ 抹茶を飲んでみよう
9	不思議な茶の湯 作法に込められたおもい
10	おいしい茶の湯 茶の湯の菓子と料理
11	すてきな茶の湯 茶の湯は日本の総合芸術
12	緑内障（Ⅰ）
13	緑内障（Ⅱ）
14	白内障（Ⅰ）
15	白内障（Ⅱ）
16	ブドウ膜炎（Ⅰ）
17	ブドウ膜炎（Ⅱ）
18	網膜症（Ⅰ）
19	網膜症（Ⅱ）
20	盲学校見学実習
21	盲学校見学実習
22	盲学校見学実習
23	盲学校見学実習
成績評価法	出席、実習態度、接し方、対人関係、基礎知識についての理解度から、総合的に評価する
使用テキスト	
備 考	

科目名	社会福祉				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療従事者として、社会福祉の理論や制度について学ぶとともに、現代社会のさまざまな問題についても考察を深める。

授業計画

1	社会福祉とは
2	日本の社会福祉の歴史
3	社会保障制度
4	社会福祉従事者(社会福祉専門職者)
5	児童福祉
6	高齢者福祉
7	障害者福祉
8	試 験
成績評価法	試験、出席状況、授業態度の総合評価
使用テキスト	適宜レジュメを配布する
備 考	

科目名	保育				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

1. 保育について学ぶ（保育実習対策） 2. 子どもの発達と支援について学ぶ（国試対策）

授業計画

1	子どもの発達と保育
2	子どもとの関わりと実践
3	子どもの発達と支援
4	保育実習とその方法①
5	子どもの発達支援 ビジョントレーニング等
6	保育実習とその方法②
7	子どもの発達・保育事例
8	試験 実習にむけてのまとめ
成績評価法	試験（70％）提出資料（15％）学習意欲・態度（15％）
使用テキスト	発達と保育を支える巡回相談（金子書房）
備 考	副教材：保育実習 プリント 使用機材等：プロジェクター・DVD

科目名	臨床心理学Ⅱ				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

心のしくみについて知り、対人援助のための技術を身につける。

授業計画

1	臨床心理学とは
2	心のしくみ
3	防衛機制
4	ストレス
5	心の病気
6	アセスメント
7	支援技術
8	試 験
成績評価法	試験、レポート、授業態度による
使用テキスト	
備 考	副教材：プリントを配布

科目名	生理学Ⅱ（脳・神経）				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

視覚機能の基本的な機序を理解する。

授業計画

1	①内分泌機能 専門基礎分野Ⅰ-10
2	②神経系の構造と機能 専門基礎分野Ⅰ-12
3	②神経系の構造と機能 専門基礎分野Ⅰ-12 ③細胞の興奮性膜 専門基礎分野Ⅰ-12 1) 活動電位 2) 興奮伝達
4	3) シナプス
5	④末梢神経系 専門基礎分野Ⅰ-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 脳神経機能
6	⑤視覚機能と関連した末梢神経系 専門基礎分野Ⅰ-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 視覚機能と関連した脳神経機能
7	⑥自立神経系 専門基礎分野Ⅰ-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 交感神経系 2) 副交感神経系
8	⑦視覚機能と関連した自律神経系 専門基礎分野Ⅰ-12 専門基礎分野Ⅲ-1-K, L, M 1) 交感神経系 2) 副交感神経系
成績評価法	筆記試験（形成的評価） マークシート試験（総括的評価）
使用テキスト	
備 考	使用器材等：プロジェクター

科目名	生理学Ⅲ（視覚）				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要 特殊感覚としての資格機能における光受容の基本原理を理解し、臨床問題の背景を理解する。

授業計画	
1	①視覚器 1) 形態と構造 2) 神経伝達路 3) 受容器
2	②視細胞・視物質・光化学反応 1) 明順応 2) 暗順応
3	③光受容機構 1) 電氣的応答 2) イオン機構 3) 光感受性化合物
4	④網膜でのシナプス伝達 1) 網膜像の形成 2) 網膜電図
5	⑤視覚伝導路 1) 上行性伝導路 ⑥大脳皮質 1) 視覚野
6	⑦電気生理学 1) 生体物理の基礎
7	2) E R G 3) V E P
8	4) E O G 5) E N G 6) E M G
成績評価法	筆記試験（形成的評価） マークシート試験（総括的評価）
使用テキスト	
備 考	使用機材等：プロジェクター

科目名	基礎医学Ⅰ（内分泌・代謝）				
学年	2年	時間数	15	単位数	1

授業概要

様々な障害には原因がある。その原因を科学的に解明し考察する能力を養う。

授業計画

1	I. 概論（障害とは） II. 細胞と組織浮腫
2	II. 代謝障害 1. 糖代謝1 2. 肝機能障害
3	3. 糖代謝2 4. 腎機能障害
4	5. 脂質代謝 6. 生活習慣病 7. 血管の障害
5	8. アミノ酸 タンパク質
6	9. 核酸代謝
7	III. 先天性代謝異常
8	試 験
成績評価法	試験 授業態度 出欠席等総合的に評価する
使用テキスト	生化学 生理学 解剖学などから抜粋して利用する
備 考	副教材：プリント等使用

科目名	基礎医学Ⅱ（救急・公衆衛生）				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

病理学を学び、眼科看護に役立つ意識の修得を目標にする。
公衆衛生学概論の内容の多くが、健康と関わりのある事柄であることを理解し、専門職者の一般常識として身につける事を目標。

授業計画

1	病理学とは
2	炎症・免疫・感染①
3	炎症・免疫・感染②
4	血行について①
5	血行について②
6	遺伝・先天疾患
7	腫瘍について アレルギーについて
8	総論 人口
9	環境と健康
10	疫学 感染症
11	食品と健康 地域保健
12	母子保健 学校保健
13	成人・老人保健
14	産業保健 精神保健
15	試 験
成績評価法	試験、出席回数
使用テキスト	
備 考	副教材：公衆衛生学（メヂカルフレンド社）国民衛生の動向（厚生統計協会）

科目名	生理光学Ⅱ				
学年	2年	時間数	30	単位数	2

授業概要

眼科外来でルーチンに行われる検査について学ぶ

授業計画

1	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
2	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
3	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
4	実習 レフラクトメーターを使用した自覚的屈折検査法
5	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
6	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
7	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
8	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
9	実習 外来の流れの中での検査（視力、屈折、眼圧、レンズメーター検査）
10	被検者に合わせた対応①
11	被検者に合わせた対応②
12	被検者に合わせた対応
13	眼鏡処方（遠視、近視、乱視、老眼）
14	眼鏡処方（遠視、近視、乱視、老眼）
15	試 験
成績評価法	平常点と実技の習得
使用テキスト	眼科検査ガイド
備 考	副教材：視力表・レンズセット・レンズメーター・レフケラトメーター・眼圧計等